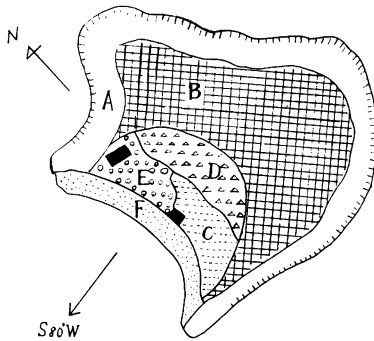


矢 筥 島 の 植 生

I. 矢筥島の自然植生概要



A. ウバメガシ林

ウバメガシ、ヤブツバキ、マルバグミ、ネズミモチ、トベラ、クサスギカヅラなどよりなる海岸群落

B. タブーホソバカナワラビ群落

本島の主要な植生で、林そのものは若いタブの萌芽の成長ぶりよりみて、タブーホソバカナワラビ群落の極相林になることはたしかである。ヤダケが栽培されて来たという歴史をもっているために、なお下生えにヤダケがかなり繁茂しているが、タブの成長によって早晚衰退していくと考えられる。

その一部の群落組成は次のようである。

| | | | |
|--------|---------|--------|---|
| § 高木層 | ca. 6 m | 被度95% | |
| タブ | 5 | ヤブニッケイ | 1 |
| ヤブツバキ | 1 | | |
| § 低木層 | ca. 2 m | 被度100% | |
| ヤダケ | 4 | タブ | 1 |
| イヌビロ | 1 | カクレミノ | + |
| ミツバアケビ | + | ノイバラ | + |

中 西 哲

| | | | |
|---------------|--------|--------------|-------------|
| § 草木層 | ca0.3m | 被度30% | |
| ホソバノカ ナワラビ | 3 | ヒサカキ+ | ムベ + |
| カクレミノ (芽生) | + | ネズミモ チ(芽) | チヂミザ サ + |
| オオヤブコ ウジ | 1 | ウマスゲ+ | タブ(芽)+ |
| トベラ (芽生) | + | マルバグ ミ | ソルマサ キ + |

§ まぎつき植物

| | |
|-------------|---|
| ムベ(高木層) | 1 |
| コイケマ(低木層) | + |
| アオツラフジ(低木層) | + |

C. ヤダケの低木林

D. オオアレチノグク、ヒメムカシヨモギ、ケナンヒメムカシヨモギなどを主体とした雑草群落Cの高地よりDの方が富養であると考えられる。

E. 開墾地

F. 砂浜、海岸植物点在

II 矢筥島の土壤

本島の大半を占めるタブーホソバカナワラビ群落の地点の土壤断面は次のようである。

| | 厚さ | 色 | PH | |
|------------------|------|-------|------|--------------|
| A層 | 4 cm | 落葉、枯枝 | | 植物の吸 収根多し |
| B ₁ 層 | 4 cm | 暗灰色 | 7.03 | |
| B ₂ 層 | 6 cm | 淡灰色 | 4.85 | |
| C層 | | 帯黄白色 | 4.88 | |

地質は古生層の堆積岩(頁岩)系であるので、風化土は微粒子よりなる。B₁層を除いてかなり酸性を示す。

この堆積岩風化土のために、県内によくみられるシイ林がよくタブを主体とした森林の存在を許していると考えられる。したがって植樹に際しては充分この点を考慮することが必要である。